

まほろは



病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第111号

2010年10月
発行

多剤耐性菌について

最近問題になっている多剤耐性菌について簡単に説明します。これは多くの抗菌薬に耐性を獲得した菌のことです。通常の菌と比べれば、まれにしか存在しないので健康な人には問題になりません。これらの菌は接触感染といって触れることで感染します。もともと持っている場合と病院内で感染する場合があります。

多剤耐性菌をもった人が、抗菌薬による治療を受けると、通常の菌が少なくなり、かわりに多剤耐性菌が増えます。菌が実際に体の中で増えて悪さをしている状態を感染症といい、治療の対象となります。一方、多剤耐性菌が検出されても、症状がなければ治療をし

ません。この状態を保菌といいま。免疫力が低下している人や、いろいろなカテーテルが体に入っている人は、多剤耐性菌による感染症状をおこしやすくなります。

このような状況にならないように医師は十分な配慮をして抗菌薬を使用すべきですし、医療関係者は手洗いを含むさまざまな感染対策を行なう必要があるのです。



小児科医長 杉本 和彦

津軽最大の秋祭り — お山参詣 —

五穀豊穡・家内安全を祈願し、毎年旧暦8月1日、霊峰岩木山に集団登拝して御来光を拝む「お山参詣」。今年は9月8日がその日にあたり、天候にも恵まれて、約300人の参拝者が2年連続となった御来光に手を合わせました。

お山参詣は、「向山（むかいやま）」（初日）、たくさんの参拝者が白装束を纏い、登山囃子や「懺悔懺悔（サイギサイギ）」の掛け声も高らかに、御幣（ごへい）や幟（のぼり）を掲げて岩木山神社を目指す「宵山（よいやま）」（二日目）、御来光を拝むため、未明に岩木山山頂を目指して出発する「朔日山（ついたちやま）」（最終日）の3日間に渡って行われます。参拝者が

掲げる御幣御幣は、お参りの回数によって色が決められており、初参りは青・赤・黄などの色混ぜ、2回以上は白、5回以上は銀色、7回以上は金色となるそうです。

江戸時代、8月1日だけは一般人はお山に入らず、藩主だけが登拝していたとのこと。最近では、「宵山」に弘前市岩木庁舎から岩木山神社まで御幣を手を歩く「レッツウォークお山参詣」や、「朔日山」深夜に岩木庁舎からバスで岩木山8合目まで移動、そこから山頂を目指して御来光を拝む「岩木山山頂ご来光ツアー」も行われており、随分と気軽に「お山参詣」に参加できるようになりました。ぜひ一度、特別な御来光に感動してみませんか？

入院係 工藤 真淑

「子宮頸がんって、予防できるの？」～7月市民講座～

先頃、HPV; ヒトパピローマウイルスのワクチンによる子宮頸がんの予防効果が多く取り上げられています。

そもそも子宮頸がんとは？！妊娠時に胎児を育てる体部ではなく、子宮頸部とは子宮口に当たる部分ですので、医師が診察で肉眼的に観察でき、直接細胞を採取し検診できます。初期がんでは全く自覚症状がありません。従って、皮膚や粘膜に感染したHPVはやがて細胞を異形成へと促し、数年かけて頸がんとなると言われています。特に100種類以上の型のうち、子宮頸がんではHPV16,18という番号のウイルスがもっとも多く、ワクチンが発売され、3回接種することで予防効果がでています。もちろん感染する前（10～14歳）が望ましいのですが、45歳以下でも十分に効果があるといわれています。

肝心なことは、ワクチン接種したら終わりではなく、定期的に検診を受けることです。すべてのがんを防ぐものではないのですから！

産婦人科医師 小笠原 智香



はじめてのボランティア

西一病棟では長い入院をがんばっている小学生の子供たちがいます。

今月から病院のボランティアに登録していただいている大学生の方に勉強を教えてもらっています。勉強を教えてもらっているＴ君に感想を聞いてみたところ「先生が来るのが楽しみ。勉強がたのしくなったよ」とおしえてくれました。

複数のお子さんが長期入院をされていますので、まだ

まだ勉強を教えてくださいませんか。そこで、ボランティアの方大募集中です。

治療のため、なかなか外にでる機会の少ない子供たちのために、勉強以外にも昔遊びなどなど、子どもたちに教えていただける方がいましたら、どうぞよろしくおねがいいたします。 小児科医師 三上 珠希



『風の子保育園』大運動会

9月12日（日）看護学校講堂で運動会を行いました。

たくさんの父母、祖父母の大拍手に迎えられて園児の入場行進、力強い選手宣誓、ラジオ体操、アンパンマン体操を行い、競技が始まりました。

「ありさん わっしょい」と大きい箱を積み重ねたり、「ドンコドンコ」「ヤーヤドー」「ちびっこねぶたのお通りだ!」とミニねぶたを引っ張る姿に、会場からたくさんの拍手をもらい、初めての運動会でも泣かずに



ニコニコだった1・2歳のたんぽぽ組。

ジャンプして魚をくわえたり、かわいいねこポーズで平均台を上手に渡ったり、親子競技では苦戦しながらも5この

風船を割り、きれいなちょうちんに生まれ変わって「はらぺこあおむし」になりきってゴールした3・4歳のちゅうりっぷ・ばら組。

紙ヒコーキを折って、天気予報に合わせた服装選びをした5・6歳のひまわり・ゆり組。

食育活動として、「青森県特産品を学ぼう」では、祖父母が全力で三輪車をこいだり、フラフープをまわして特産品を探し当て、5・6歳の園児が特産品で郷土料理を完成しました。祖父母の活躍に園児からたくさんのエールが送られました。

なるこを持ち、かわいらしく「沖縄力チャーシー」の遊戯、はちまき・バチを持ち、勇ましく踊った「火炎太鼓」、つなひき・玉いれ・親子リレー。今年も津軽伝承の手踊り「どだればち」で会場を盛り上げてくれました。

最後に、昭和50年開園から一緒に頑張ってきた清藤先生が9月で定年退職になり、たくさんの卒園児がお祝いにかけつけてくれ、一緒に競技にも参加し最後のステキな思い出をみんなで作る事ができました。

今年も親子の触れ合いを楽しみながら、友達と一緒に心と力を合わせて思い出いっぱいの運動会を終えることができました。

皆さん、お疲れ様でした。

風の子保育園園長 諏訪 栄子

医療費の相談②について

シリーズ最後の今回は医療費の相談②と題して、当院をご利用されている患者様に対しての「相談窓口」についてお話いたします。

当院では、患者様に安心して治療を受けていただくため、「患者相談室」があります。場所は整形外科外来隣りにあります。

そこでは医療社会事業専門員（医療ソーシャルワーカー）がおり、無料で福祉相談に応じております。福祉相談の中でも医療費等の心配事についても受け付け

ております。（秘密厳守）

お困りの際には、お気軽にご相談下さい。ご相談をご希望される方は、受付③窓口までお申し出下さい。

相談の内容により私に対応させていただくこともあります。患者様ご家族様の目線にたって誠意をもってお話させていただきますのでご遠慮なく相談にいらしてください。

お待ちしております。

医事専門職 石川 修

『中華そば』提供までの小話 ～ 10g のこだわり ～

今回は、『中華そば』を提供するまでのウラ話を紹介したいと思います。

先般から、『中華そば』のメンは業者と共同開発した特製メンというアナウンスをしてきました。確かにこのメンは伸びません。しかし、スープを吸う特性に変わりはありませんでした。厨房から病棟の患者さんまでの最大時間は《20分》の設定としました。試作する度にふやけるメン（あんかけやきそば状）を見て、何度も落胆しました。器、フタ、配膳車の温度、スープ、メンと全てを否定的に吟味しました。やっぱり無理か

なあとこの空気がみんなに漂い始めました。☆もしかししたら!? メンのグラム数を変えたらどうか? ☆通常1玉150gのメンを10gずつ減らして行きました。そして、1玉100gというベストな設定に到達しました。案の定、《20分》経過しても、メンはスープの中で泳ぎます!? 10gのこだわりに賭けたみんなの強い気持ちで『中華そば』の提供に至ることが出来ました。

さらに、みそ味、醤油味に続く第3のラーメンとして、☆★しお老麺★の試行が最終段階であります。詳細は次回ということで…。 栄養管理室長 篠島 良介

外 来 診 療 一 覧

◆外来医師診療一覧表（2010年10月1日現在）

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
		下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子	下山亜矢子
消化器・血液内科		太田健	週毎に交替で担当 ①吉谷／松木 ②松木／太田 ③太田／吉谷	太田健	太田健	—
		吉谷元		松木明彦	吉谷元	松木明彦
		佐藤年信		佐藤年信	—	佐藤年信
小児科		三上珠希	野村由美子	杉本和彦	野村由美子	野村由美子
		杉本和彦	佐藤工	三上珠希	佐藤工	杉本和彦
		—	—	佐藤次生	佐藤次生	—
外科		田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹	横山昌樹	三上勝也
		三上勝也	三上勝也	田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛	柿崎寛	秋元博之	秋元博之 又は 大鹿周佐	柿崎寛
		大鹿周佐	佐々木規博	大鹿周佐	能見修也	秋元博之
		田中直		—	—	柿崎寛
脳神経外科	午後	—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
	午後	● 予約	● 手術／検査	● 予約	● 手術／検査	● 予約
泌尿器科	午後	工藤誠治	弘前大学医師	小林大樹	佐藤元昭	—
産婦人科		真鍋麻美	片桐清一	真鍋麻美	● 妊婦検診 (一般外来休診)	片桐清一
		柞木田礼子	小笠原智香	小笠原智香	—	柞木田礼子
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	● 手術 (一般外来休診)	黒田令子	黒田令子
		二井一則	二井一則	—	二井一則	二井一則
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	—
女性専用外科		杉本菜穂子（※予約制／第1・第3火曜日午後診療）				
セカンドオピニオン		—	—	—	今 充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

当院の最近の臨床研究から「小児の採血・点滴施行時におよそ50%の母親が立会いを希望している」

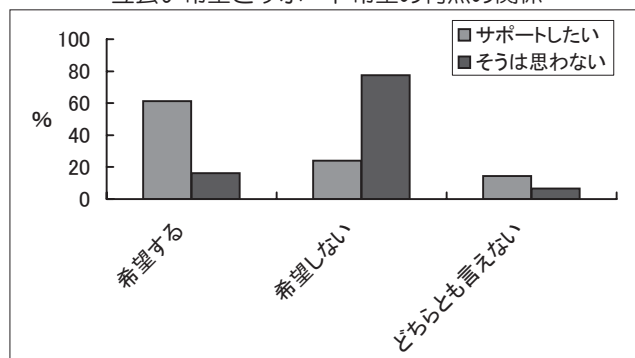
このたび、間山明美助産師、成田直美看護師らの研究「子どもの採血・点滴施行時の家族の立会いについての母親の意識」が「小児看護」に掲載されることになりました。この研究は、当院では今のところ子どもが採血や点滴の処置を受けるときには家族を立会わせていませんが、近年、立会いたいという家族（おもに母親）が増えてきている実情を踏まえて行われました。当院の西1病棟（小児科・産婦人科病棟）で採血や点滴を受けた小児の母親118名を対象に、小児の採血や点滴を行う際に家族の立会いを希望するかどうか、立会いを希望する理由、希望しない理由などを調査したものです。結果は、立会いを希望する48.3%、希望しない39.7%、どちらとも言えない12.1%でした。また、これまで立会った経験のある人は70.9%、経験のない人は29.1%、もし立会った際に何らかのサポートをしたいと思う人が73.3%、そうは思わない人が26.7%で、この2項目と立会い希望の有無に有意な相関がみられました。一方、立会いを希望するかどうかは子どもの年齢や性別、入院回数に関係しませ

んでした。

論文は、小児の採血や点滴施行に立会わせるかどうかを決めるときには、立会って何らかのサポートをしたいと思っている母親が多くいることに留意する必要がある、と結んでいます。

臨床研究部長 泉井 亮

立会い希望とサポート希望の有無の関係



【シリーズ医療安全のとりくみ②】食事と安全

今回のテーマは、『食事と安全』です。

この言葉を聞いた時に、“食中毒”や“O-157”など様々な言葉をイメージされるのでは？と思います。

さて、栄養管理室では、年間なんと！？1095回！！（1日3回×365日）の食事を提供しています。その間には、味噌ラーメン、冷やしトロロうどん、海鮮丼など、四季折々のイベントメニューを展開しています。その中で、安全な食事を提供する為に、私たちが日々行っている業務の一部を紹介します。

- ①納品：品質に問題はないか。数量は合っているか。賞味期限は切れていないか。肉や魚など食品ごとに適正な温度で届けられているか確認する為、全ての食品の温度測定を行っています。
- ②下処理：材料を冷たい水で念入りに洗ったり、切ったり。腐っていないか？などを点検します。
- ③調理：大人が入る位の大きな鍋やボールを使用し、限られた時間の中で十分に加熱や冷却を行います。
- ④盛り付け：配膳車が調理場から出発する時まで、治療食やアレルギーなどの禁止食品の確認や点

検を行います。

- ⑤運搬：廊下やエレベーターの乗り降りは、前後左右を特に確認しながら、病棟まで運んでいます。上記①～⑤に示した作業工程で、患者さんの食事を提供しています。更に、定期的に手洗い検査や、食事と安全に関する自発的な職場内勉強会も行っています。

最後に、今後も安全で美味しい食事を提供する為、栄養管理室一同、頑張ります。

栄養管理室リスクマネージャー 沢谷 里江



【シリーズ医療安全のとりくみ③】5S活動で心もピカピカにリセット!!



“カーテンレールのクモの巣、書類やカルテに溢れた乱雑な机の上、パソコンや電話周囲の綿ゴミ…”これは昨年の当病棟のナースステーションの状態でした。雑然とした状況の中で日々仕事を行っていましたが、これでは何らかの事故に結び付く危険性が考えられました。そこで当病棟では昨年から5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）活動として3分間クリーニングを実施しています。場所は主にナースステーションと処置室ですが、昼のカンファレンス前にスタッフが一斉に実施します。例えば月曜日はパソコン周囲や水回り、火曜日は電話周囲とカーテンレール…と言うように曜日ごとにクリーニングの場所を決め週間予定を立てています。最近ではすっかり定着し5Sに対するスタッフの意識も高まりました。たった3分ですがこの活動は単に環境を整えるだけではなく、午後の仕事に向かう私達の心までピカピカにリセットできるダブルの効果があります。今後も活動を継続していきたいと思います。

南病棟リスクマネージャー 工藤 みや子

今月の川柳

★【川柳募集】あなたの川柳をお待ちしています。

おの(我が家の)じっこ 100歳すぎても ちゃんという (ヒゲ男)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

※毎月、第4水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。

次回は、10月27日(水)午後5時40分からの予定です。

◆ 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW（メディカルソーシャルワーカー）が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

発行元 **独立行政法人国立病院機構弘前病院**
Hirosaki National Hospital
責任者 臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>